

# 宗祖法然上人 800回大遠忌 通信 号外II

2007年(平成19年)10月

法然上人八〇〇回  
大遠忌奉修

平成二十三年  
自 四月二十五日(月)  
至 五月一日(日)



「八〇〇回大遠忌テーマ」  
法然上人と今、  
すべてのいのち

法然上人の行跡を顕彰し  
その功績を偲びませんか

法然上人を歩く旅  
(二七〇キロのウォークラリー)

法然上人がお生まれになったのは現在の岡山県です。この生誕の地から京都比叡山までの約二七〇キロを十四回にわけて歩くものです。今まで五回を数え、今回は十二月九日(日)に姫新線千本駅から本竜野駅までの十六・五キロを歩きます。

※詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

法然上人へ絵手紙を  
書いてみませんか

法然上人に手紙を出すという仮想の中で、自分の想い、願い、夢などを絵手紙で表現していただくというものです。

応募期間(第一回)

平成十九年十月〜十二月末

応募規定

葉書大に絵手紙を書き封書で郵送(個人情報保護のため)  
絵にはひと言添えてください。

応募資格 不問

※応募作品の著作権は主催者に帰属。

法然上人最後の教え  
「一枚起請文」を  
なぞり書きしてみませんか

管長猊下ご染筆の色紙(印刷)を入れた写経セットには、写経用紙とともに、鉛筆やボールペンで、手軽になぞり書きできる用紙も同封しています。ぜひこの機会にご本山への奉納をおすすめいたします。奉納回向をして御影堂下の特設納経所に一年間お祀りいたします。

写経用紙セット

一セット 一、〇〇〇円  
(含 奉納回向料)

宗祖法然上人800回大遠忌記念事業事務局  
〒606-8445  
京都市左京区永観堂町48  
総本山 永観堂禅林寺内  
電話 075-761-0007 FAX 075-771-4243  
URL: <http://www.eikando.or.jp/daionki/>

## 法然上人と今、すべてのいのち 「値(あ)い難くして遇(あ)うことを得たり」

かつて結婚式の祝辞によく使われた言葉に「三つの袋」というのがありました。使い古されて、今時の披露宴で話そうものなら颯感(ひんしゆく)を買うこと請け合いです。

しかし、この「三つの袋」は時代を超えて大切にされねばならぬ教えなのです。人として真に幸せな正しい生活をするために、またお蔭さまの中に生き大きな命によって育まれて暮らしていることへの感謝の気持ち忘れぬために大事にすべき「三つの袋」とは、

おふくろ 胃ぶくろ 堪忍ぶくろ

これはすべて「生命(いのち)」というものにかかわっているのです。

まず第一は「おふくろ」。

一人の人間に二人の親があり、四人の祖父

してくる「永遠の母性」に目覚(めざ)めなければなりません。それが「仏に会おう」ということなのです。

二番目は「胃ぶくろ」。つまり、私の身体そのものを大切にすることです。せっかく親から与えられた、この二度とない人生を、命ある限り精一ばい生きることです。

三番目は「堪忍ぶくろ」。人生を歩む上で大切なことは、悲しみや苦しみに耐えていく心です。仏教では「忍辱(にんにく)」とい、この世界を「忍土」といいます。苦しみの多い人生だからこそ、自分のまわりの縁のある人の命を大切にせよ、という教えです。そのためにはどこかで「おのれの我(が)」を押さえねばなりません。それが「堪忍ぶくろ」です。

法然上人はご法語に

多生曠劫(たしようこうごう)をへても生まれがたき人界に生まれ、無量億劫をおく

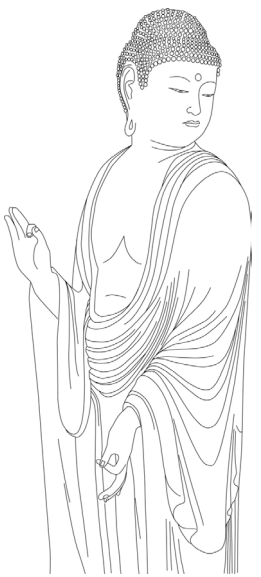
母があり、八人の曾祖父母がいて、わずか三代で十四人の「親」と呼ばれた人がこの世にいてくれたのです。それを十代遡(さかのぼ)ると一、〇二四人。十五代で三二、七六八人。二十代までいくと百万人を超えます。おふくろという袋の中に眼に見えない多くの先祖の命が含まれていて、実にその総和がこのわたしの一身につながっていると思うと、ただ驚きと感謝とを感ぜずにはおれません。つまり、おふくろの命の中に無数の先祖の命があり、さらに遡れば「無量寿」という仏のいのちに包含されているのが私の命であるのです。

私たちは単に自分を生んでくれた父母を思うだけでなく、母の中のあるゆる命を生み出りても値(あ)い難き仏教に遇(あ)えりと述べられて、人として生まれ仏教に会えたことを「難値得遇」と感謝しておられます。

いただいた命に感謝し、仏と出会えたよるこの念仏生活を送ることが法然上人の勧められた人間の本来の生き方なのです。

「生命(いのち)」への深い思いのなかに、お念仏のやすらぎを見出し、この人生の旅路を歩みたいものです。

姫路 大覚寺 中西玄禮



みかえり阿弥陀如来像